

3. 遺伝的能力評価の推進

現状と問題点

遺伝的能力評価技術専門委員会及び普及推進会議において技術的な問題点の改善、普及推進方策について検討。

農場内で比較できる個体の遺伝的能力評価値を年4回フィードバック。

生産子豚数を除く繁殖形質及び産肉形質についてはデータ数が少ないため、増加対策が必要。

種豚間の血縁関係が低いため、信頼度が低く、農場間の比較が困難。

- ・ 評価値は、農場内の種豚の選抜や農場内の種豚による交配計画の策定のみ利用。
- ・ 場外から(生体や精液で)導入する種豚の選定に利用することができない
- ・ 疾病問題等により種豚の交流が進まず、種豚間の血縁関係が高まらない

評価表の利用方法がわからない等により農場であまり利用されていない。

参加者及びデータ増加の取組み

F1, 子豚登記情報のうち、生産子豚数を繁殖データとして利用 (19年4月評価から)

	2007年1月評価	4月評価
・ 繁殖データ数	30,798	230,131
・ 採用農家数	565	1,165
・ 評価結果	45,423	103,267
・ 公表基準(信頼度0.2)以上の結果		
生産頭数	27,508	78,289
・ 3週時育成頭数	27,507	74,695
・ 3週時一腹総体重	26,402	38,985

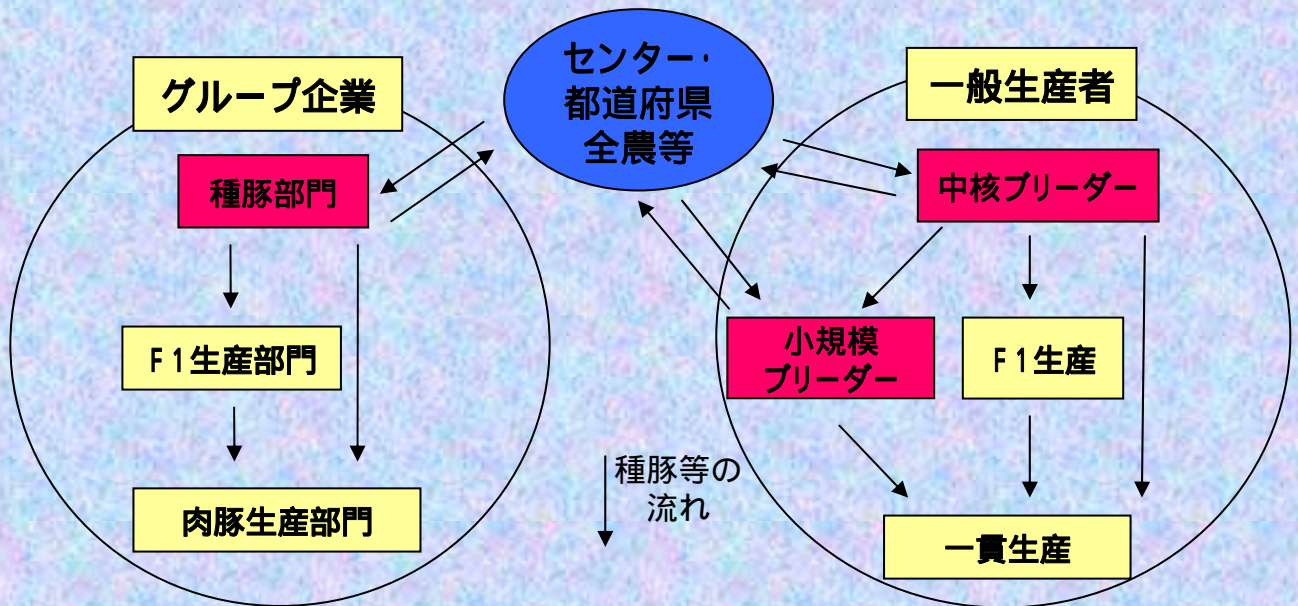
繁殖・産肉能力の部分的データの有効利用 (19年4月評価から)

:一部(例:産肉能力であればDGのみ)のデータ提供でも血縁ブリッジ構築や参加者増加のために受け付ける。

飼養頭数の多い農場(特に、精液販売に力を入れている農場)をピックアップし個別に参加要請

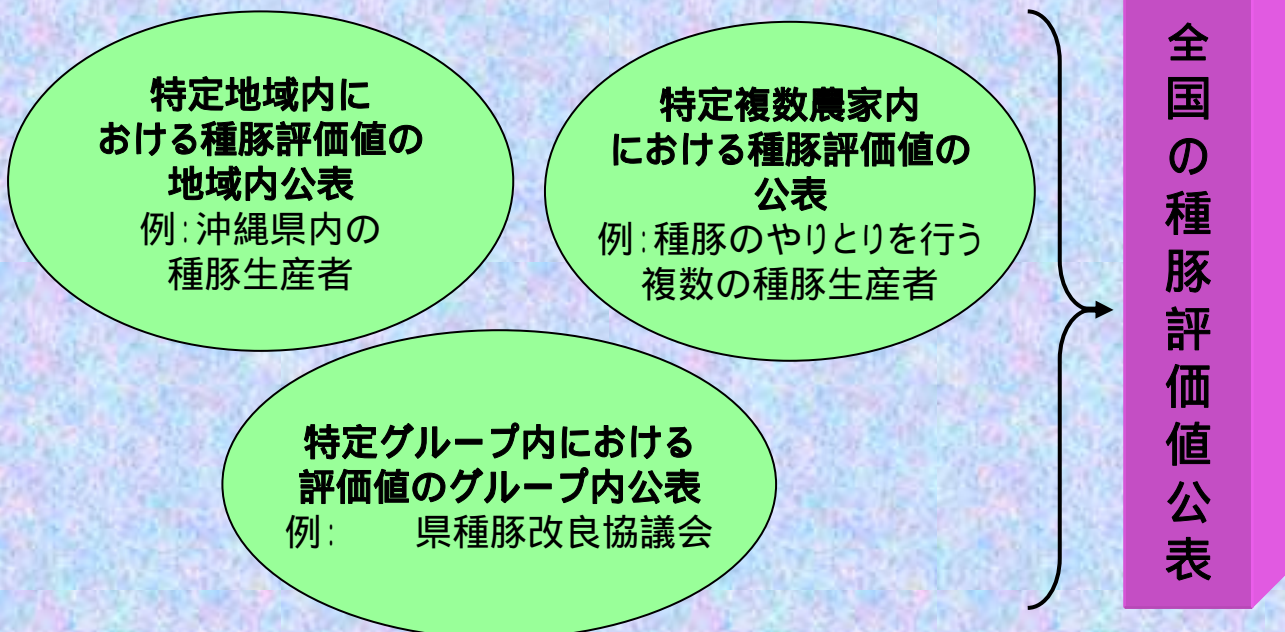
登録講習会、指定種豚場大会等において、能力評価への参加要請、能力評価表の利用方法等説明

血縁ブリッジ構築の取組み



- ・センター等(青枠)から供給された種豚を介して、農場間の血縁ブリッジ構築
- ・種豚生産者(赤枠)間で、種豚を供給・導入し、血縁ブリッジを構築



種豚の遺伝的能力評価値利用推進の取組み



- ・血縁ブリッジが構築された地域、グループ、特定農家において種豚評価値を公表することにより、遺伝的能力評価の利用価値を高める。
- ・これらを核として、血縁ブリッジを広げ、「日本版ステージス」の確立を目指す。

肢蹄評価の取組み

- ・ 肢蹄の評価については種豚生産者から要望の高い重要な項目。
- ・ 最終目的は遺伝的能力評価に肢蹄評価を加えること。
- ・ 今年度より「つなぎ」評価調査表を使用し、茨城牧場、沖縄県家畜改良センターにおいて、調査を開始。
- ・ 「つなぎ」評価調査表によりつなぎの善し悪しを決めるものではない。
- ・ 「つなぎ」は肢蹄の要素の一つとの位置づけ。
- ・ この調査は、実際に評価に使えるか、遺伝率がどのくらいかを探るためのもの。

豚の「つなぎ」評価調査表		牧場名					
		No					
品種	性	子豚登記又は種豚登録番号	農場での名号	生年月日			
		30kg時評価調査員氏名 _____					
		105kg時評価調査員氏名 _____					
		離乳時評価調査員氏名 _____					
前肢							
体重(30kg)	検査月日	管囲	1	2	3	4	5
実測:		cm	コメント:				
体重(105kg)	検査月日	管囲	1	2	3	4	5
実測:		cm	コメント:				
離乳時	検査月日	/	1	2	3	4	5
		/	コメント: (のこす ・ トータ)				
後肢							
体重(30kg)	検査月日	管囲	1	2	3	4	5
実測:		cm	コメント:				
体重(105kg)	検査月日	管囲	1	2	3	4	5
実測:		cm	コメント:				
離乳時	検査月日	/	1	2	3	4	5
		/	コメント: (のこす ・ トータ)				

豚の遺伝的能力評価に係る 新しい評価形質の検討

共同試験・研究



報告

意見・要望

- ・豚の遺伝的能力評価技術専門委員会
- ・豚の遺伝的能力評価普及推進会議

- ・ 技術専門委員会、普及推進会議で提案される評価に関する意見・要望のうち、共同で試験・研究できる内容のものについて、閉鎖群育種会議等において共同研究を希望する県等を募る。
- ・ 試験・研究結果について技術専門委員会及び普及推進会議に報告する。
- ・ 現在、肢蹄評価に関して共同研究を実施しているところ。